

INAZAWA RENEWABLE ENERGY INTRODUCTION PLAN



©Inazawa City INAPPY

稲沢市地域再エネ導入戦略 概要版 (素案)
令和5年 月

稲沢市経済環境部環境保全課 (環境センター内)
〒492-8391 稲沢市中野川端町74番地
TEL : 0587-36-3710
FAX : 0587-36-3709
E-mail : kankyo-hozen@city.inazawa.aichi.jp

2023

(素案)

稲沢市地域再エネ導入戦略 概要版

2050



令和5年 月

稲沢市

稲沢市では、2021年9月2日に2050年までに市内から排出される温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「稲沢市ゼロカーボンシティ宣言」をしました。本戦略はゼロカーボンシティの実現に向けて、本市の将来像と取組の方向性を示したものです。



稲沢市ゼロカーボンシティ宣言

現在、世界規模で問題となっている気温の上昇、局地的豪雨、超大型台風の発生などの気候変動は、二酸化炭素を始めとする温室効果ガスの増加が原因であり、これは社会経済活動等により排出されたものであります。これらの活動は、健康で文化的な生活の確保や福祉に貢献するためのものですが、その目的とは裏腹に、人類を危機に直面させることとなってしまいました。

これからの生活は、これまでの生活の豊かさを維持しつつ、温室効果ガスの排出を大きく抑制することが求められています。そのためには、行政はもちろん、事業者や市民の皆様一人ひとりが、製品の買換えやライフスタイルの選択など、賢い国民運動「COOL CHOICE」を実践していかなければなりません。

本市におきましては、次の世代の子どもたちに、安心して暮らすことができる環境を残し、グリーン社会を実現するために、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組を進めていくことを宣言いたします。

令和3年9月2日

稲沢市長 加藤 鏡司郎

将来像

地域に根差し、地域を活かすゼロカーボンシティいなざわ

重点実施

緑を生みだし、緑を活かすまち『いなざわ』

苗木・植木を活かしたゼロカーボン

- 剪定枝の燃料化
- 植木・苗木による吸収
- 植木出荷による域外でのCO2吸収貢献

景観に配慮した再エネ導入

吸収源の保全、ミティゲーション※1の推進

カーボンオフセットの実施

循環・還元のまち『いなざわ』

廃棄物を活かしたゼロカーボン

- 可燃ごみ焼却エネルギーの有効利用
- し尿、下水汚泥のエネルギー化

家庭での食品ロス削減

市民・事業者の分別に対する意識啓発

サーキュラーエコノミー※2の推進

生ごみ等のたい肥化

農業・住宅・事業所の分類に応じた省エネ・創エネのまち『いなざわ』

太陽光発電導入によるゼロカーボン

- 太陽光発電の建物への最大限導入
- 駐車場におけるソーラーカーポート
- 農地、遊休地におけるソーラーシェアリング

建物新築時における太陽光の積極推進

建物の省エネ化・ZEB化・ZEH化の推進

蓄電池利用の積極的普及

地球に負担をかけない移動のまち『いなざわ』

稲沢市全体でのEV・FCV等へのシフト

- 市民・事業者へのEV・FCV等の利用推進
- 公用車のEV・FCV等の利用推進
- 公用車におけるシェアリング事業推進

コンパクト（スマート）シティ※3の推進

公共交通、自転車等脱炭素交通の推進

EV充電設備の増強

ゼロカーボンシティ
いなざわ

みんなでゼロカーボンを目指すまち『いなざわ』

啓発・教育によるゼロカーボン

- 環境教育の積極的実施
- ゼロカーボンイベントの開催
- ゼロカーボンの取組の見える化

事業者の技術を社会で活用

市民主体のゼロカーボン活動の推進

ゼロカーボン関連の補助、融資の活用推進

近隣市町村との協力によるゼロカーボン

地域新電力会社の設立の検討

COOL CHOICE※4の推進による行動変容

パートナーシップ制度による官民協働

※1 開発等人間の活動によって発生する環境への影響を緩和、または補償する行為

※2 循環型経済。製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化する経済システム

※3 住まいと生活機能(交通、商業施設等)が近接している効率的な都市

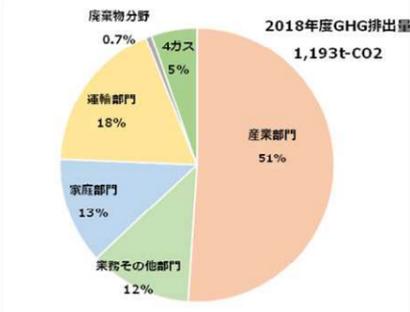
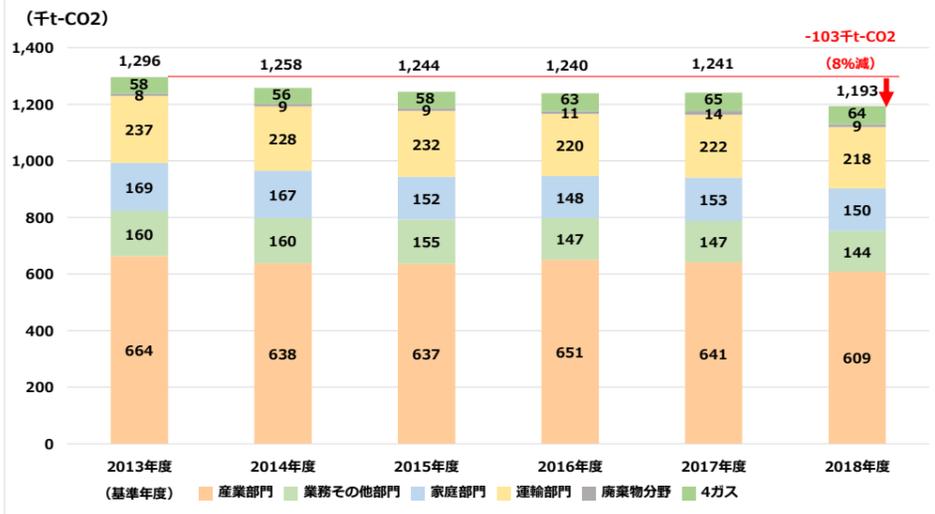
※4 温室効果ガスの排出量削減のために、日々の生活の中で、脱炭素社会づくりに貢献するあらゆる「賢い選択」をしていこうという取組



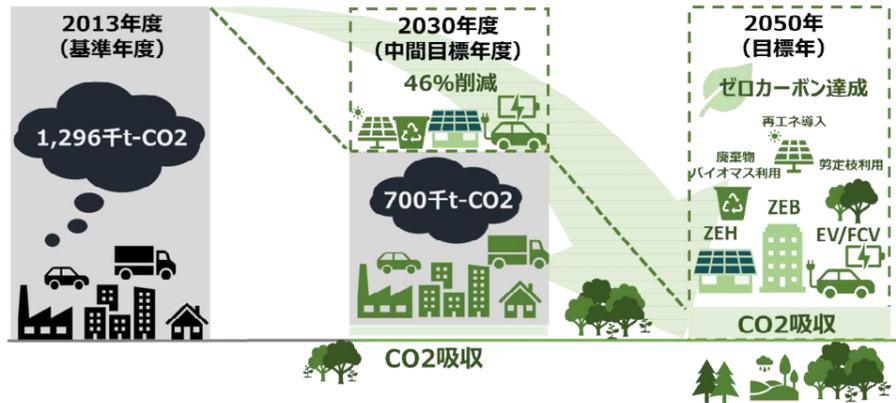
©Inazawa City INAPPY

稲沢市の温室効果ガスの現状とゼロカーボンに向けた削減目標

稲沢市における2018年度現在の温室効果ガス排出量は1,193千t-CO2であり、基準年度である2013年度から約8%削減しています。また、稲沢市では産業部門からの排出が約半分を占めています。



稲沢市における温室効果ガス削減目標は、国の削減目標に従い、2030年度までに基準年度（2013年度）比で46%削減（700千t-CO2）、2050年までにゼロカーボンを達成するという野心的なものです。



ゼロカーボン達成に向けた取組

(1) 省エネルギー化

稲沢市は市民や事業者と共に省エネ化を進めることにより温室効果ガスの削減を目指します。

部門	取組
産業	省エネ性能の高い設備・機器等の導入推進、業種間連携した省エネ取組の支援 等
業務その他	建築物の省エネ化、徹底的なエネルギー管理の実施、省エネ行動の徹底 等
家庭	住宅建築物の省エネ化、省エネ性能の高い設備・機器等の導入推進、省エネ行動の徹底 等
運輸	次世代自動車の普及、公共交通機関の利用推進 等
廃棄物	廃棄物焼却量の削減
その他	環境保全型農業の推進 等

省エネ化の取組により、稲沢市の2050年の温室効果ガス排出量は529千t-CO2にまで削減すると考えられます。



(2) 再生可能エネルギーの導入

稲沢市にある再生可能エネルギー導入ポテンシャルの利活用により、将来のエネルギー需要を満たすことでゼロカーボンの達成を目指します。

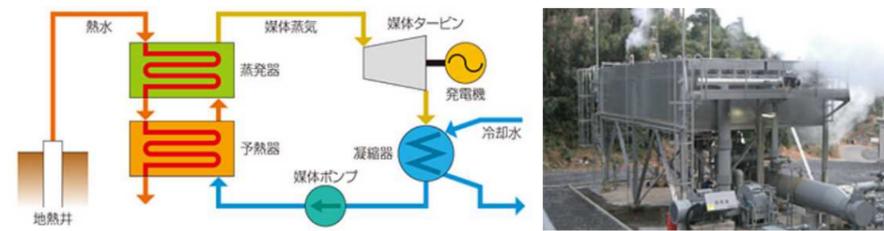
太陽光発電

【導入ポテンシャル：716MW（1,004,270MWh/年）】



地熱(低温バイナリー)発電

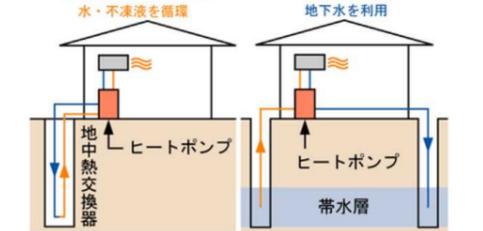
【導入ポテンシャル：0.045MW（278MWh/年）】



地熱バイナリー発電※
※出典：資源エネルギー庁HP

地中熱利用

【導入ポテンシャル：7,025TJ/年】



地中熱の空調利用※
※出典：地中熱利用促進協会HP

バイオマス発電

【導入ポテンシャル：2.15MW（4,240MWh/年）】



稲沢市環境センターの
発電電力の有効活用

植木の剪定枝等の活用

し尿、下水汚泥等の活用※
※出典：富山県HP

2050年の温室効果ガス排出量	2050年の電力需要量	2050年の熱需要量
529千t-CO2	287,420 MWh/年	6,355 TJ/年
再生可能エネルギー導入ポテンシャル		
	909,185 MWh/年※	7,025 TJ/年

※再生可能エネルギー導入ポテンシャルからすでに導入されている再生可能エネルギーを除いた数値

(3) みんなで進めていくゼロカーボン達成に向けた取組

普段の生活の中でご家庭や職場ですぐにでもできるゼロカーボンに向けた取組を積極的に推進します。

- 剪定枝を分別・収集し、資源として利用できるようにする
- 身近な緑の保全・拡大に主体的に取り組む
- 家庭エコ診断（環境省）や省エネルギー診断等の活用で家庭、事業所のエネルギー利用量（CO2排出量）の見える化をする
- 生ごみ等をたい肥化し、再生利用する
- 3010運動等に協力し、食品ロスを削減させる
- 廃棄物の4R（リフューズ（Refuse）、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle））を心がける
- 量り売り等廃棄物が発生しないライフスタイル・経済活動への転換
- 公共交通機関や自転車等環境負荷の少ない交通を積極的に利用する
- パークアンドライド、サイクルアンドライドを心がけた移動をする
- ゼロカーボンや稲沢市の取組に関心を持ち、家族友人と情報を共有する

2023年

2030年

2050年

緑を生みだし、緑を活かす
まち『いなざわ』



農業・住宅・事業所の分類
に応じた省エネ・創エネの
まち『いなざわ』



循環・還元のまち
『いなざわ』



地球に負担をかけない移動
のまち『いなざわ』



みんなでゼロカーボンを目指
すまち『いなざわ』



稲沢市地域再エネ導入戦略策定

苗木・植木を活かしたゼロカーボンの推進

剪定枝活用手法の検討

苗木・植木産業等から出る剪定枝の燃料化の推進

苗木・植木産業等の振興による吸収量の拡大及び出荷による域外のCO2吸収確保

カーボンオフセット手法の検討

目標値達成に向けたカーボンオフセット

太陽光発電導入によるゼロカーボンの推進

市内駐車場におけるソーラーカーポートの導入

市内の農地・遊休地におけるソーラーシェアリングの導入

新築住宅、事業所、公共施設における太陽光発電の導入

太陽光発電の導入に伴う蓄電池の導入

省エネ診断の実施

事業所、公共施設における高効率機器、EMSの導入

廃棄物を活かしたゼロカーボンの推進

可燃ごみ焼却によるエネルギーの有効活用

し尿、下水汚泥のエネルギー化検討

し尿、下水汚泥のエネルギーの有効活用

食品ロスの削減、生ごみ等のたい肥化の推進

サーキュラーエコノミー（循環型経済）の推進

稲沢市全体でのEV・FCV等へのシフトによるゼロカーボンの推進

市民、事業者、市におけるEV・FCV等の普及、EV充電設備等の増強

公用車におけるシェアリング事業の展開

コンパクトシティ・スマートシティの推進

公共交通、自転車等脱炭素交通の推進

啓発・教育によるゼロカーボンの推進

市内学校における環境教育の実施、COOL CHOICEの推進

ゼロカーボンイベントの開催

市民主体のゼロカーボン活動の推進

事業者の技術活用の場の創出

新技術活用（再エネ、蓄電、CCUS等）によるゼロカーボンの推進

パートナーシップ制度による官民協働の推進

地域新電力会社設立検討

地域新電力会社の活用によるエネルギーの地産地消

近隣市町村との協力によるゼロカーボンの推進

稲沢市ゼロカーボンシティの達成

※白字は重点的に推進していく取組を表しています。